

さいたま
見沼

よみさんぽ

2021

Vol. 39

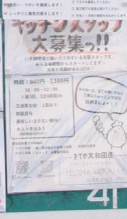
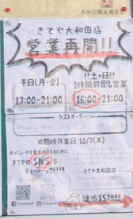
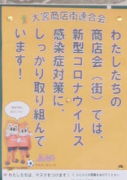
大和田銀座商店会

まち歩き 7

東武野田線を歩く；大和田駅



大和田ぎんざ情報



東武野田線を歩く；大和田駅

北大宮駅、大宮公園駅に続き、今号では大和田駅とその界隈をまち歩き。

私自身も大和田界隈に暮らし始めて約20年。最寄り駅も大和田駅ですが、今回大和田駅の記事を書くにあたり、改めて資料を読み、その資料をもとに“まち歩き”してみて、初めて目にするもの、初めて知ることがいっぱいありました。

大和田駅周辺

大和田駅のある「大和田町」の歴史をたどると、江戸時代にさかのぼります。武蔵国足立郡南部領に属していた大和田村は、1889（明治22）年の町村制施行によって大砂土村大字大和田となり、その後、1940（昭和15）年の大宮市発足、1960（昭和35）年の町名地番変更により、大宮市大字大和田及び大字土呂の各一部が大和田町となったそうです。



大和田駅は1929（昭和4）年、総武鉄道の北大宮～春日部間の開通を機に、大宮公園駅、七里駅とともに開設されました。大和田駅周辺は線路を挟んで、北には大和田銀座商店街、南には大和田ふれあい商店街があり、日用品がそろうスーパーやコンビニエンスストア、ドラッグストア、生花店、食事処、銀行などが軒を連ねています。クリニックや薬局、学習塾などもあり、朝や夕方には多くの人が行き交います。大きなマンションなどは少なく、脇道に入れば閑静な住宅街が

広がり、畑地や雑木林も残っています。

五葉松

大和田銀座通りを通りに沿って西に歩くと、右側に大きな松があります。これが、さいたま市指定天然記念物「大和田の五葉松（東）」です。その数軒先に「大和田の五葉松（西）」があることも確認できたのですが、和風門の中にあり、その全景は見るのができず……



五葉松（東）表側から

私が五葉松（東）を見に行くと、この松を代々受け継いできた戸山家の方が庭の植木に水を撒いていらっしゃいました。ぶしつけではありましたが、「五葉松の写真を撮らせていただいてもいいですか？」と聞くと、とても気さくに、「いいですよ。そちらは裏側だから、中に入って正面から撮ってもいいですよ」と言ってくださいました。さいたま市のホームページを見ると、「一般公開はされていません」とあったのですが、お言葉に甘えて正面からの五葉松を拝見しました。淡い緑の葉であることから「霜降り五葉松」と言われているそうですが、私にはとても青々しく見えました。グンと四方に枝を張る堂々とした姿は、さすが樹齢約550年。長い時間、この街やそこで暮らす人たちの変遷を見守ってきただろうことを感じさせます。聞けば、以前はもっと道路に近いところにあって、ご自宅の建て替えに伴い、現在の場所に移植されたそうです。移植に際しては五葉松を保護するための準備（根回し）に6年もかけたというので、驚きです。その甲斐あって、移植されたとは思えない立派な樹勢は今なお保たれています。そこには、五葉松を19代にわたって受け継ぎ、守ってきた戸山家の人たちの“自分たちの代で枯らすわけにはいかない”という強い誇りを感じました。

鷲神社

そのまま通りを西方向に直進し、第二産業道路を渡って市民の森方面に歩くと、右側にあるのが大和田の鎮守「鷲神社」です。入り口脇の「御由緒」を見ると、社殿は1855（安政2）年の建造と伝えられる総檜の入母屋造り、社殿入り口の唐破風屋根は近辺には見られない高さを誇る重量感が特徴と書かれています。

この神社には「見沼の笛」という伝説があります。昔、鷲神社の近くの沼に笛を吹く美女が現れました。その笛の音を聞くために沼に行った村の若者が次々と消えてしまい、働き手を失った村人たちは困り果てました。それを聞きつけた武士がその美女を射ようとすると、どこからともなく黒雲がわき、豪雨となり、美女の姿は消え、笛だけが残されていたというお話です。この伝説には、見沼の水田化に怒った龍神が美女になったなど、諸説あります。とはいえ、この伝説にかかわる神社ですから、見沼の守り神、龍神との縁も深い神社と言えるのかもしれません。すぐ前の道路は交通量は多いものの、境内はとても静かで、落ち着いた空気が流れる空間。お参りする人も見られ、地域の人たちに親しまれていることを感じました。



鷲神社

大和田陣屋跡

鷲神社を出て坂を下り、市民の森を背に芝川沿いの道を、大和田陣屋跡を目指して歩きます。しばらく行くと、芝川を説明する立て看板を発見。その看板を境に分かれた芝川沿いと住宅街沿いの二股道、住宅地の道を行いました。少し行くと、住宅に向かう上り坂があります。きれいに整備された緑は「大和田1丁目緑地」のものでした。整備された緑地はお散歩中の避暑にちょうどよさそうです。ぐらりと緑地を回ってから来た坂を下り、大和田公園通りに出て、いざ大和田陣屋跡へ。

大和田陣屋跡というのは、芝川とは約10mの高低差、大地は急崖をなしてそそり立つ地形を生かし、戦国時代の伊達与兵衛房実がここへ陣を築き、敵を見張っていたと言われる場所です。資料には、現在も約3mの土塁が残されているとありました。戦国時代の名残がある場所を楽しみに地図の場所を訪ねると、なんとそこは住宅街。比較的新しい住宅やアパートなどが並んでいて、あるはずの大和田陣屋跡の土塁が見当たりません。アパートの敷地の草取り作業をしていた人に、「大和田陣屋跡を目指してきたのですが、この辺りにありますか?」と聞いてみたところ、数年前に住宅の建て替えを行った際に、土塁もなくなってしまったそうです。大和田陣屋跡といっても、個人所有の敷地に土

塁が残されていたただけだったことがわかりました。

目に見えるものはなくなりましたが、そこが大和田陣屋跡であったことは間違いなし。「土塁はなくなっちゃったけど、島村さんちの長屋門はあるから、そこも見てみたら?」と教えてもらい、島村家の長屋門に向かいました。

島村家長屋門

さいたま市大宮体育館を背に大和田公園通りを東に進み、第二産業道路を越えてすぐのところに、島村家長屋門を指す看板があります。指されたほうに目を向ければ、そこから大きな長屋門が見えます。近くに行ってみると、どーんと白い壁が立ちはだかり、母屋と外をしっかりと区分けしています。時代劇の世界を彷彿とさせるたたずまい、そこだけ時代が切り取られているようです。この長屋門には大きな扉があったようですが、今はシャッターになっています。大きな扉のついた長屋門を一度は目にしてみたかった……この辺りに暮らして20年、今まで足を運ばずに来てしまったことを少し後悔しました。



島村家長屋門

自分の暮らす街をいかに知らずに過ごしているか、感じさせられた大和田散歩。大和田にも長い歴史があり、今もその歴史に触れる場所がこんなにあるなんて……そして、その場所を守ってきた人たちの存在があることを改めて感じています。文化財の指定を受けたり、さいたま市が紹介している歴史的な場所も、所有している個人や地域の人たちによって守られていることを知りました。今回回ったのはごく一部。大和田駅の北のほうやもっと東にも、私たちの知らない場所があるはずです。皆さんも、普段とは違う道を歩いてみると、新しい発見があるかもしれません。次号は、七里駅界隈をご紹介します。

(記・イラスト 宗野 文)

参考図書

『写真でみる大宮の昔と今』大宮市立博物館編、大宮市、1990

『大宮をあるくⅠ～東部編』大宮市教育委員会編、1988

小説になった 大宮盆栽村

もうすぐ開村 100 年！

並木せつ子

『盆栽マイフェアレディ』（山崎マキコ著 幻冬舎 2008 年）

長瀬繭子 22 歳、断れない性格の見習い盆栽師です。毎日大宮盆栽村で泥にまみれて「盆栽三昧」。職業の選択をまちがえたということもあります。それというも元々盆栽に興味があったわけではなく、盆栽園の兄弟子で、大学の先輩でもある松本の盆栽熱にまき込まれてしまっただけだったからです。でも松本と盆栽の夢を語り合う時には「自分が解放される」ことにも気づいていました。

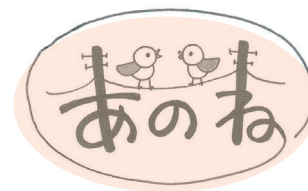
そんな時に現れたのが謎の男性高野。高級車で食事に誘い贅沢なプレゼントを贈って繭子をびっくりさせます。盆栽村での質素な日常と、高野との豪華で密やかな休日。後ろめたさを覚えながらの二重生活でした。そんな繭子にも決断の時が……。

『大宮盆栽村クロニクル』（宮田一也著 アーカイブス出版 2008 年）

盆栽村の始まりから 1947（昭和 22）年までを記録した小説。関東大震災後、東京本郷の盆栽業者たちが「盆栽作りの理想郷」を作ろうと話し合い、たどりついたのが土と水に恵まれた現在の盆栽村の地。「武蔵野の手つかずの原野そのもの」だった土地を開墾し、1925（大正 14）年に移住が始まりました。

その後、住民規約[※]の制定や広い（六間）道路の整備など、次々と盆栽村としての形を整えていきます。電気もひかれていない土地での苦労や、難しい蝦夷松盆栽への挑戦、戦争中の受難など、まさに大河ドラマ。小説とはいえ登場するのは実在の人物で、盆栽村の歴史を知るために格好の資料です。

※盆栽村は盆栽業者以外の居住も認められたが、住民は「盆栽所有、門戸開放、二階建禁止、囲いは生垣」の 4 項目を守るべし、という規約を定めた。



よみさんぽ編集委員のつぶやき

幼い頃から移動することへの憧れが強かった。必然的に仕事や旅での移動は車を選ぶことが多く、相棒のように扱ってきた。そんな私にとって印象深かった車を紹介したい。

カローラクーペ（レビン？）

小学校に上がる前の車で記憶は薄いですが、マニュアルシフトのこの車はエアコンレス。まだ渋滞も少なかった時代だったが、夏のドライブの終盤、夕焼けがやけに美しく見えたのは、暑さのせいだったかも知れない。

ジャガー XJ6

カローラで青春していた父は、その後クラウンを何台か乗り継いだ後の車にジャガーを選んだ。家電のように進化していく国産車に比べて、この頃の英国車は遅れていたかも知れない。でも、干し草の香りがする厚手のウール生地が使われたシートは、住宅にも車にも同じ水準の文化を求める懐の深さを感じた。

三菱シャリオ

家族との旅行や、仕事車として父が選んだ 7 人乗りの車は大学生になった私の旅車になった。止まらず・曲がらず・加速せずの三拍子揃った車だったが、コツを掴めば、それも楽しかった。後ろの席は倒すと寝床になり、移動手段と寝食する場所が一体となった理想的な空間となった。数週間に渡る果て無き旅路で無数の夕日を追いかけ続けることができた。

ホンダビート

自他共に認める車好きだったが、自分で車を所有するまでは時間がかかった。望みが高すぎて絞りきれなかったからだが、単にお金がなかったせいでもある。職場の先輩が処分しようとしていたこの車をタダ同然で譲ってもらったが、2 年でエンジンプロー。懲りずに入手した 2 台目は、今でも大切な相棒だ。

キャンピングカー X

何度かキャンピングカーをレンタルして旅をしてみた。印象は、車というよりも陸を移動するクルーザーのようだった。これがあれば今後は、終わらない旅の続きをカミさんや犬たちと続けられる。再び自由な旅ができる世の中を夢見つつ、妄想は限りない。

（記 都祭俊一郎）

あの街 この街 俊一郎が行く *Second* Vol.33

ヒーローのあしあと

丘の上の聖火台

2017年の秋、バルセロナの街を歩いていました。街中ではカタルーニャ独立運動の集会が盛んで、見学しようと思っていた施設が閉鎖されていたり、思い通りの道順で進むことができませんでした。群衆や喧騒を避けるように進むと、徐々に道は丘を登り始め、トレーニングに勤しむ学生たちを見かけるようになりました。そのまま進んでいると、重厚な構えの建物と有機的な造形をした金属のオブジェのようなものが見えてきました。オリンピックの聖火台です。

バルセロナ

スペインもバルセロナも、初めての訪問でした。一緒に旅をしているイタリア人はバルセロナに叔父がいて、子供時代の街の様子を知っています。その頃はとても危ない場所が多かったものの、オリンピックを機に徐々に良くなっていったそうです。

かつてヨーロッパのユースホステルで同宿となった日本人同士、旅行してきた場所の情報交換をしましたが、スペインを旅行してきた人からは怖い話をたくさん聞いたことがあったので、その話を疑うことはありませんでした。今回の旅もそれなりの覚悟をしてきましたが、呆気にとられる程、雰囲気がいい。

あしあと

聖火台の近くにきた時に、足元のプレートに気がつきました。棒高跳びのセルゲイ・ブブカの名前と足型です。他にも、ミゲル・インデュライン（自転車）、アルベルト・トンバ（スキー）などの名前を見かけ胸が熱くなりました。まだヒーローを求めている子供時代に憧れていた、スポーツ界のビッグネームたちです。スキー選手もいたので、バルセロナ・オリンピックの出場者に限ったものではないようですが、彼らが活躍していた頃からだいぶ時間が経ち、自分の足と比べて大いに楽しみました。オリンピックの存在意義に関する様々な議論は何ももたらしませんが、ヒーローたちの足跡はいつまでも感動を与えてくれます。



(バルセロナ オリンピック聖火台)

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト・7

人と人をつなぐ音楽のチカラ

2年目に突入した本プロジェクト。5月から見沼区中心に地域を巡り始めました。その名も「旅するお茶の間」。「お茶の間」のようなゆったりした時間が流れ、1人1人の居場所となるような空間を、地域を巡って創り出していくことがねらいです。自治会や地元企業、NPO法人などの協力を得て地域を巡り、新たな出会いも少しずつ生まれ始めています。

2頭のヤギ・喜々と楽々がデビュー！

「旅するお茶の間」は、キッチンカーとともに地域を巡ります。キャラメルポップコーンや乾燥野菜、革製品などの手作り商品も並びました。6月には、待ちに待った2頭のヤギ・喜々と楽々がデビューしました。場所は見沼区中川にあるやどかりテラスの木々の中。ちょっと首を傾げて人を見るその表情は何とも可愛く、元気よく草を食べる姿に癒されます。2頭の周りには人々が集まり、喜々と楽々に会うために遠方から訪れた人もいるほどの人気ぶり。ヤギがつなぐご縁が広がりそうな予感です。

音楽を真ん中に人と人がつながる

プロジェクトメンバーの佐藤史子さんは、集まる人たちのリクエストに応えフルートの音色を響かせてくれました。青空の下、みんなで音楽を口ずさみ、中には涙する人も……ところがほんわか、あたたかな気持ちになるのも音楽の魅力でしょう。そんな音楽の魅力を佐藤さんは次のように語ってくださいました。

「音楽大学に通っていた頃、福祉作業所で演奏する機会がありました。音楽を通じて聞いている方と一体になれるすばらしい感覚を体験しました。音楽には作曲者の思いや気持ちがつまっています。音楽に触れ、その物語を自分のものとして味わう……音楽は私たちの心の中でいろいろな形で息づきます。私は音楽と聞き手をつなぎ、喜びや悲しさなどに共鳴する表現者でありたいと思っ

ています。地域巡回ではフルートを演奏する機会をいただきました。リクエストをいただき、思い出の1曲をいっしょに楽しんでいます。音楽を真ん中に人と人がつながる……これからもそんな活動を続けていきたいと思っています」



サクソフォンの音色に満たされて

やどかりテラスで演奏会

また、毎年やどかりの里大バザーに協力してくださっている出口朱輝^{あき}さんは、「しらこぼと音楽団」の皆さんといっしょに参加。「しらこぼと音楽団」は、サクソフォンなどの管楽器とピアノ、打楽器のアンサンブルグループで、県内を拠点に演奏活動を行っている市民グループです。6月のさいたまユースサポートネット（さいたま市見沼区）で行われた地域巡回では、サクソフォンの5重奏を披露。室内会場に音色が響き渡り、心地よい時間が流れました。ご家族といっしょに立ち寄った人は音色に聴き入り、お孫さんが遊びに夢中になっている間ゆっくり過ごされていきました。

出口さんは、「会場の響きがとてもよく、お客さんとの距離感もよく、演奏中も曲間もお客さんとの対話を楽しみながら演奏することができました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で演奏する機会が少なくなったのですが、今回は来場者に楽しんで聞いてもらえたようで良かったです」と話されていました。



会場に響く五重奏

楽器の奏でる音色にこころも満たされる「旅するお茶の間」。日常のほんのひとコマ、音楽の心地よさに包まれてみてはいかがでしょうか。メーというヤギの声や音楽の音色が聴こえたら、そこには「旅するお茶の間」がお邪魔しているかもしれません。

(記 三石麻友美)

未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト2020 事務局
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4 やどかり情報館内
TEL 070-3260-2020 FAX 048-680-1894
e-mail:tt.prj2020@gmail.com



#つなぐ・つくるプロジェクト

ヤギ日誌

ヤギの大冒険!?

軽トラでのお散歩&楽々の脱走劇



2頭のヤギ、喜々と楽々がさいたまにやってきたのは、春。初めての暑い夏を乗り切って、季節は秋。日向ぼっこしながらのお昼寝も心地よさそうです。

小さかった2頭も、この半年で随分大きくなりました。今の環境にもすっかり慣れて、よく食べ、よく動き、よく眠り、元気に過ごしています。餌の時間になると、「そろそろおなかすいたよ～」と言わんばかりの切ない声で鳴き、人が来ると、しっぽをパタパタ振りながら「メエー（会いに来てくれたの～）」と近づいてきます。そんな喜々と楽々との、この間の出来事をご紹介します！

軽トラでの散歩

梅雨に入るまでは歩いて行っていたお散歩ですが、アスファルトが熱くなるので、裏の林に連れていくのが中心でした。そんな中、天気がいい時には、軽トラで移動し、草むらでゆっくり草を食べる散歩に出始めました。最初はなかなか乗りたがらず、餌で釣るようにして荷台に乗せていましたが、乗れば餌場に行けることがわかってきたのか、最近では軽トラの近くに連れて行けば、自分で飛び乗るようになりました。もともと音に敏感で、歩いて散歩していた時も、車が通ればびくっとして走り出していた喜々と楽々。車で移動はまだ慣れないのか、荷台で鳴いていることも少なくありません。涼しくなってきたので、また2頭のペースでゆっくり歩く散歩を再開できそうです。お散歩中の2頭を見かけたら、遠慮なくお声掛けくださいね。



小さな脱走劇

ある日、1人の職員が仕事の合間にヤギ小屋に目をやると、2頭は人の気配に

気づいて、職員のほうに顔を向けていたそうです。

……「あれっ??」何か違和感が。もう一度目を向けると、楽々が小屋の外に出ているではありませんか!!

2頭がやってきて間もないころ、まだ環境にも人にも慣れていないときに、外に出たタイミングで逃げてしまったことがありました（今思えば、そのときも楽々でした……）。そのときは、楽々もパニックになってしまったのか、すごい勢いで道路のほうに走り出ってしまったのです。なんとか捕まえて、無事に小屋に戻すことができましたが……まさかの、悪夢再び!?

こちらが焦りながら下手に近づいて以前のように興奮させてしまったら、また道路に飛び出してしまうかもしれない。それを心配した職員は、事業所にいた職員に声をかけ、複数人でそっと近づいて無事フェンスの中に戻すことができましたそうです。

今回の脱走の原因は、扉につけている南京錠のかけ忘れでした。大きくなってきた2頭は力も強くなっています。たまたま鍵がかかっていなかった扉を頭で押して、運がいいのか悪いのか開いてしまったのではないかと推測しています。今は、扉が2頭に押されたくらいで開かないように、切った木の幹を使って対策をしています。もちろん、鍵の閉め忘れにも気を付けています。

ヤギはもともと臆病で、気が小さくて、寂しがり屋なのだそうです。たまたま外に出てしまった楽々ですが、生まれたときからいっしょにいる喜々はフェンスの中にいましたし、いつも過ごしている小屋から自分だけ離れるのは不安だったのかもしれません。それとも、自分で出たことはなかったから、フェンスから出た認識をしていなかったかも……。そう感じるくらい、何もなかったかのように近くの草を食べながら、のんびり過ごしてくれていて助かりました。一方、外に出られなかった喜々は何を思っていたのでしょうか? 「なんで楽々だけ外に行けたんだろう?」と不思議がっていたかもしれません。

後日、近所の人と話しているときに今回の脱走劇を話題にしたところ、「あ～この間出てたね、草食べてたね」と、通りかかったときに見かけて「外に出して草を食べさせているんだな」と思っていたとのこと。ヤギが出ている! と驚くことなく、地域の人が普通のこととして温かく見守ってくれていたことを知りました。ありがとうございます。 (記・題字イラスト 宗野 文)

人と人とのつながりで
安心安全な未来へ向けたまちづくりを

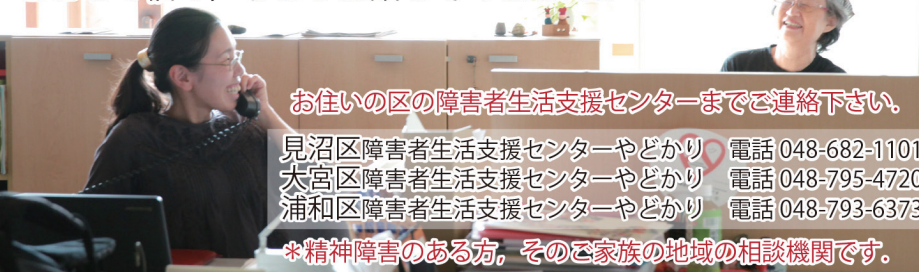


清掃スタッフ
募集中!!
QRコード
▲応募はこちら

M. 今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1
TEL : 0120-156365 (フリーダイヤル) <https://www.mainchikogyo.co.jp>

こころの悩み、ちょっと話してみませんか?



お住いの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい。

見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-682-1101
大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-795-4720
浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-793-6373

***精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です。**

片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています

 048 (686) 8601

開設時間
月曜日～金曜日
10時から16時



「よみさんぽ」配布ボランティア募集

やどかりの里では、障害のある人で分担して、地域の皆さんによみさんぽをお届けしています。お散歩のついでなどに、ご近所に配ってくださるボランティアを募集しています。地域や部数はご相談させていただきます。

連絡先 048-680-1891 (やどかり情報館：萩崎まで)

◆高齢者向け弁当の配送パートさんを募集しています

昼食配達) 10:45 ~ 13:00 夕食配達) 15:30 ~ 17:30
月～金曜日 (日数、曜日について応相談)
時給 970 円 【お問い合わせ】 048 (686) 7875 (金子)
(月～金・祝日を除く、8:30 ~ 17:30 受付)
エンジュ 〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 286-1



◆新年度やどかりの里正職員募集

2022 年度新採用 (精神保健福祉士、社会福祉士) の募集を開始しています。
詳しくはやどかりの里 HP か、右記 QR コードを参照ください。
お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494



すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために
こうぬまふくしかい

社会福祉法人 **鴻沼福祉会**

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
どうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000
FAX 048-854-3538
さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなげいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910
FAX 048-854-6942
さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)
職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいて女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています! 問い合わせ先: 048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL : 048-854-6890 FAX : 048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所 (中央区) ●あさみ共同作業所 (見沼区) ●そめや共同作業所 (見沼区) ●きりしき共同作業所 (中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム (以上、中央区) ●のぞみホーム (見沼区) ●ひかりホーム (西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢 (以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人 (見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

“人としていかに生きるか”について考えるなかで、平和の基盤は自然との共生にあると痛感し、埼玉県明石農園にて自然栽培を学ぶ。

生かされていること、全ての本質が等しくつながり合っていることを感受してから世界が変わり、その一部として生きたいと思うように。

自然とヒト・人と人をむすぶお手伝いがしたく、“自然とヒト”…いのちの記録をメインに活動している。

ホームページ <http://tomomusubi.com/>

表紙写真によせて

はじめての場所に訪れると、新鮮な空気感とともにドキドキワクワクします。

と同時に、いかに普段決められたような枠組みの中で過ごしているか、ということにも気づかされます。

特に目的を持たない歩みからの新しい発見や自分への気づき。

こんな時間も大切にし、
自分とも
もっと楽しく付き合っていきたいと、
茨木の子さんの詩—
「自分の感受性くらい」を
浮かべながら感じていました。

(柿内未央)

さいたま見沼よみさんぽ 第39号

発行 2021年10月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷



公益社団法人やどかりの里

やどかり出版



公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同